

## 再 評 価 書

事業名	森林整備事業	事業区分	県営林道三和片川線	室名	熊野農林商工環境事務所 森林・林業室																												
事業概要	工期 (下段：当初)	昭和49年～平成33年	全体事業費 (下段：当初)	7,635百万円(負担率：国1/2：県1/2)																													
		昭和49年～平成25年		7,635百万円(負担率：国1/2：県1/2)																													
事業目的及び内容																																	
<p>(1) 所在地 熊野市紀和町和気地内の県道小船紀宝線を起点とし、同町小栗須地内の国道311号線を終点とします。</p> <p>(2) 事業の目的 路網が未整備な熊野市紀和町南東部の広大な森林における骨格となる林道として、森林の適正管理と森林資源の有効利用を図るとともに、布引の滝など森林や自然を活かした観光資源へのアクセス道路として地域振興を図ることを目的とします。</p> <p>(3) 全体計画 ① 延長：32,260m ② 幅員：5m(天瀬～楊枝川区間は平成14年度から4mに縮減) ③ 事業費：7,635,177千円(237千円/m) ④ 事業期間：昭和49年度～平成33年度(48年間)</p> <p>(4) 利用区域の森林資源の状況 当該路線の利用区域面積は2,496ha、そのうち人工林1,558haで、人工林率は62%です。 人工林の91%が11～60年生の間伐対象の森林です。</p>																																	
事業主体の再評価結果																																	
<p>1 再評価を行った理由 事業採択後5年を経過した平成15年度に、三重県公共事業再評価実施要綱第2条に基づき再評価を行いました。再評価実施後5年を経過しましたので同要綱に基づき再評価を行いました。</p>																																	
<p>2 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>(1) 事業着手 昭和49年度に布引工区で工事着手</p> <p>(2) 進捗状況(平成19年度末の事業量) ① 開設延長：21,830m(進捗率67.7%) ② 事業費：4,849,677千円(進捗率63.5%)</p> <p>(3) 課題 県予算の状況が年々厳しくなっていること、布引工区が平成13年度から休止していることなどから、現在の事業計画期間内での完成は困難で、事業完了を平成33年度に延長せざるを得ない状況です。</p> <p>(4) 利用区域内の森林整備の状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">計画</th> <th colspan="2">H20調査時点</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>整備面積</th> <th>うち間伐</th> <th>整備面積</th> <th>うち間伐</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H10～14</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>272.53 ha</td> <td>242.27 ha</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td>H15～19</td> <td>263.70 ha</td> <td>237.08 ha</td> <td>389.86 ha</td> <td>333.58 ha</td> <td style="text-align: center;">"</td> </tr> <tr> <td>H20～24</td> <td>447.87 ha</td> <td>347.66 ha</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>計画</td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) その他利用区域内の状況 紀南森林組合や森林所有者などにより、これまで6,120mの作業道等が開設され、間伐等の森林整備や木材生産が実施されました。 今後も9,730mの作業道開設が計画されています。</p>							計画		H20調査時点		備考	整備面積	うち間伐	整備面積	うち間伐	H10～14	—	—	272.53 ha	242.27 ha	実績	H15～19	263.70 ha	237.08 ha	389.86 ha	333.58 ha	"	H20～24	447.87 ha	347.66 ha	—	—	計画
	計画		H20調査時点		備考																												
	整備面積	うち間伐	整備面積	うち間伐																													
H10～14	—	—	272.53 ha	242.27 ha	実績																												
H15～19	263.70 ha	237.08 ha	389.86 ha	333.58 ha	"																												
H20～24	447.87 ha	347.66 ha	—	—	計画																												

### 3 事業を巡る社会経済状況等の変化

#### 1) 周辺環境の変化

- ①熊野市は、平成17年11月1日に熊野市と紀和町の合併により誕生しました。
- ②熊野市では、平成20年度を始期とする総合計画を樹立し、木材流通の拡大を目標に掲げ、その実現のために行政が果たすべき役割として、林道、作業道の整備を上げています。
- ③熊野原木市場におけるスギ・ヒノキの取扱量及び平均価格を平成15年度と平成19年度で比較すると、取扱量で約3割、平均価格で約2割減少しています。

### 4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

#### 4-1 費用対効果分析

費用対効果は、前回の1.22から、今回は1.27へとわずかですが増加しています。

(原因)

- ・長伐期化により、間伐の適期をⅣ～Ⅹ齡級(16～50年生)から、Ⅲ～ⅩⅡ齡級(11～60年生)に変更したため

	前 回	今 回	増 減
B (便益)	10,769,685千円	13,069,748千円	2,300,063千円
C (費用)	8,838,677千円	10,274,740千円	1,436,063千円
B/C	1.22	1.27	0.05

#### 4-2 地元意向

熊野市では、林業振興や森林の適正管理を促進するとともに、自然豊かな観光資源へのアクセスや生活道、また避難道路としての役割もあることから事業継続を望んでいます。

### 5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

#### 5-1 コスト縮減

波形線形の採用、幅員や路肩の縮減、またコンクリート擁壁に替えて補強土壁工を積極的に活用し、土工量と法面保護工を減らすことなどによりコスト縮減を図ります。

#### 5-2 代替案

当路線の利用区域内の森林整備を図る必要があることから、当林道を開設する以外に代替案はありません。

### 再 評 価 の 経 緯

#### 《平成15年委員会意見》

- ・生活道路として共有する林道の幅員を変更する際、車両などの安全な通行に配慮されたい。
- ・林道事業が、森林の公益的機能をさらに一層発現し、また、木材生産がより活発になり、林業振興に直接寄与する取組を総合行政として具体的に検討されたい。

#### 《対応状況》

- ・北半分の布引、小栗須工区は、布引の滝等への観光客の通行や、県道熊野川紀和線の迂回路として利用されるため、幅員5mで縮減はしません。南半分の楊枝川、天瀬工区は、幅員が減少する箇所に標識を設置するほか、見通しを確保するためカーブミラーを設置するなど、通行の安全確保に努めています。
- ・平成16年度に、県の森林・林業行政を一元化するとともに、人材の育成、基盤の整備、作業の機械化、施業の団地化など林業振興及び森林整備を推進する施策に取り組んでいるところです。

### 事 業 主 体 の 対 応 方 針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため、コスト縮減と環境配慮に努めながら早期完成を目指し、事業を継続いたしたい。